

令和8年5月14日

一般社団法人 エネルギー・資源学会 令和7年度事業報告書

(自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日)

1. はじめに

令和7年度は、世界的には、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ侵攻とも終息の見通しが立たない状況が続いている。またトランプ米大統領による大幅な関税政策が世界経済に大きな波紋を広げ、貿易摩擦や地政学的リスクが一段と高まっている。

また国内では、円安の継続や電力・燃料コストの上昇が企業・家庭の負担増をもたらす一方、政府によるGX推進政策の本格化や第7次エネルギー基本計画の策定など、エネルギー政策の大きな転換期を迎えている。

本会は、エネルギー安全保障やカーボンニュートラル、GXといった多岐にわたるエネルギー・資源に関する政策課題を行事・会誌で様々な切り口で取り上げ、ソリューションを会員に提供していく必要がさらに増している。

2. 企画関係事業実績

(1) 研究発表会

第44回エネルギー・資源学会研究発表会（以下、研究発表会という）を8月4日・5日の2日にわたり、東京大学駒場Iキャンパスで開催した。

(2) エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス

第42回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス（以下、コンファレンスという）を1月27日・28日の2日にわたり、東京大学生産技術研究所で開催した。

(3) 特別講演会

研究発表会、コンファレンス開催に合わせてそれぞれ2件、1件の特別講演を実施した。

(4) 研究プロジェクト

研究プロジェクト「カーボンニュートラルなエネルギー需給に関する調査研究」の第1期（後半）として国内の調査・研究を行った。

(5) エネルギー政策懇話会

エネルギー政策懇話会を6回開催し、交流会も実施した。

(6) 研究部会

若手の会として、研究発表会開催時にポスターセッション・グループディスカッションを実施した。

(7) 研究委員会

「家庭部門のCO₂排出実態統計調査利用研究会」は第6フェーズに入り、コンファレンスでは企画セッションも開催した。

(8) 講習会・講座

第1回講習会「OCCTO 将来電力需給展望から得られる示唆を考える」を3月25日に砂防会館で開催した。

(9) 研究会・見学会

第1回研究会「大阪・関西万博 カーボンリサイクルファクトリー（CRF）と電力館見学」を8月25日に、第2回研究会「地球環境産業技術研究機構（RITE）炭素回

収技術評価センター（実ガス試験センター）でのCO₂回収技術見学会」を3月2日にそれぞれ見学会併催で開催した。

(10) 共催行事への対応

他団体との共催行事を2回開催した。

3. 編集関係事業実績

(1) 会誌「エネルギー・資源」・電子ジャーナル「エネルギー・資源学会論文誌」の刊行年6回奇数月の10日に会誌・電子ジャーナルを刊行した。各号の特集は以下の通り。

- 2025年5月号 「カーボンニュートラルに向けたモデル分析」
- 7月号 「化学変換による二酸化炭素活用への展開」
- 9月号 「家庭部門のCO₂排出実態統計調査とその研究活用」
- 11月号 「水電解水素製造装置の最新動向」

- 2026年1月号 「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題」
- 3月号 「ペロブスカイト太陽電池 加速する国産イノベーション」

(2) 投稿・採択された論文件数

令和7年度は、研究論文33件、技術論文10件、展望・解説3件（うち英文：研究論文2件）の投稿があった。また前年度からの査読分を含めて研究論文19件、技術論文8件、展望・解説2件（うち英文：技術論文1件）が採択され、研究論文・技術論文は会誌に論文要旨が、J-STAGE上の学会論文誌に論文本文が掲載された。

4. 総務関係事業実績

第14回学会貢献賞1件、第13回茅賞2件、第13回学生発表賞5件、第21回論文賞2件の表彰を研究発表会の表彰式で行った。

5. 主な会議開催実績

(1) 社員総会

令和7年度（第46期）定時社員総会を令和7年6月2日に開催し、以下の議事が決議された。

項目	内容
日時	令和7年6月2日（月）13時30分～14時10分
場所	大阪科学技術センター 4F 403号室
出席者	86名（うち、書面による議決権行使70名）
議事	(1) 令和6年度（第45期）事業報告（報告事項） (2) 令和6年度（第45期）決算報告書（案）承認（決議事項） (3) 令和7年度（第46期）事業計画および収支予算の報告（報告事項） (4) 理事12名選任（決議事項） (5) 監事2名選任（決議事項）
議長	下田 吉之

(2) 理事会

定例理事会を3回（オンライン開催2回、書面開催1回）開催、臨時理事会を1回開催し、以下の議事が承認された。

(第1回理事会)

項目	内容
日時	令和7年5月14日(水)
場所	書面開催
出席者	理事12名、監事2名
議事	(1) 前回理事会議事録承認の件 (2) 会員入会承認・退会報告の件 (3) 令和6年度事業報告案および決算案の承認の件 (4) 任期満了に伴う役員選任の件 (5) 令和7年度定時社員総会の目的である事項、日時および場所の件 (6) 各委員会委員の交代の件 (7) 第21回論文賞受賞者承認の件 この他報告事項2件
議長	下田 吉之

(第2回理事会)

項目	内容
日時	令和7年10月6日(月) 15時30分～17時30分
場所	オンライン開催
出席者	理事11名、監事2名
議事	(1) 第1回理事会議事録の確認 (2) 会員の入会承認および退会報告 (3) 令和8年度(第47期)定時社員総会開催日時等について (4) 見学会の参加費見直しについて (5) コンファレンスにおける特別講演会について (6) コンファレンスにおける個別相談会について (7) 各委員会委員の交代について この他報告事項4件
議長	松橋 隆治

(第3回理事会)

項目	内容
日時	令和8年3月17日(火) 15時30分～17時30分
場所	オンライン開催
出席者	理事9名、監事1名
議事	(1) 前回議事録の確認 (2) 会員の入会承認および退会報告 (3) 令和8年度事業計画・収支予算(案)について (4) 第15回学会賞他各賞の選考状況について (5) 特別講演会について (6) 各委員会委員の交代について この他報告事項5件
議長	松橋 隆治

(臨時理事会)

項目	内容
日時	令和7年6月2日(月) 14時15分～14時30分
場所	大阪科学技術センター 4F 402号室
出席者	理事10名、監事2名
議事	(1) 代表理事選定の件 (2) 業務執行理事選定の件 (3) 名誉会員選任の件 (4) 参与推薦の件
議長	松橋 隆治

(3) 企画実行委員会

企画実行委員会では会議をオンラインで4回(5月14日、8月7日、10月8日、2月9日)、対面で1回(12月15日)開催した。

(4) 編集実行委員会

編集実行委員会では会議をハイブリッドで6回(4月23日、6月24日、8月19日、10月24日、12月18日、2月5日)開催した。

(5) 総務委員会

総務委員会では会議をオンラインで3回(4月25日、9月17日、2月19日)開催した。

学会賞・学会貢献賞選考委員会を設置し、応募案件の審査を行った。

6. 出版事業の状況

書籍「スマートエネルギーシステム」が2冊販売され、16,500円の収益があった。
(前年度は13冊の販売があり、99,000円の収益)

(参考)会員数の推移

種別	前期末 (令和7年3月31日)	今期末 (令和8年3月31日)	増減
正会員	838名	797名	△41名
	うちA 322名 B 516名	うちA 323名 B 474名	A +1名 B △42名
学生会員	123名	124名	+1名
特別会員	102社・団体(121口)	99社・団体(118口)	△3社・団体(△3口)

以上

(別紙2)

令和7年度(第46期)事業報告書 附属明細書

1. 企画関係

1-1 研究発表会

第44回エネルギー・資源学会研究発表会

[日 時] 令和7年8月4日(月)～5日(火)
[場 所] 東京大学 駒場Iキャンパス
[発表時間] 1件20分(講演15分、討論5分)
[発表件数] 81件(研究発表78件、ポスター発表3件)
[参加者] 4日 205名、5日 197名

1-2 コンファレンス

第42回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス

[日 時] 令和8年1月27日(火)～28日(水)
[場 所] 東京大学 生産技術研究所
[共 催] 電力中央研究所、日本エネルギー経済研究所、エネルギー総合工学研究所、地球環境産業技術研究機構、
コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
[協 賛] 化学工学会、日本原子力学会、日本エネルギー学会、三菱総合研究所、電気学会、日本機械学会、
日本シミュレーション学会、公益事業学会、日本エレクトロロヒートセンター
[発表時間] 1件20分(講演15分、討論5分)
[発表件数] 143件
[参加登録者] 27日 308名、28日 311名
※企業向けの個別相談会6件を実施

1-3 特別講演会

第44回エネルギー・資源学会研究発表会特別講演会

[日 時] 令和7年8月4日(月) 14:45～16:55

[次 第] *会長挨拶
*特別講演

1. 「水素、アンモニアの可能性と課題」

国際環境経済研究所、元戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)

塩沢 文朗

2. 「AIとデータを用いたまちづくり」

東京大学

吉村 有司

[参加者] 112名

[司 会] 秋元 圭吾(地球環境産業技術研究機構)

第42回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス特別講演会

[日 時] 令和8年1月27日(火) 16:50～18:00

[場 所] 東京大学 生産技術研究所

[次 第] *会長挨拶
*特別講演

「GXをめぐる内外の動向と当面の課題について」

経済産業省

伊藤 禎則

[参加者] 102名

[司 会] 秋元 圭吾(地球環境産業技術研究機構)

1-4 研究プロジェクト

研究プロジェクト「カーボンニュートラルなエネルギー需給に関する調査研究」

*第1期(後半) 令和7年4月1日～令和8年3月31日

*調査委員会を年間7回(施設見学5回、合同開催1回、活動報告会1回)を実施した。

委員長 : 加藤 丈佳(名古屋大学)

副委員長 : 小宮山 涼一(東京大学)、岩田 充弘(関西電力)、三津谷 維基(東京ガス)

アドバイザー : 下田 吉之(大阪大学)、松橋 隆治(東京大学)

委員 : 19名

1-5 懇話会

第1回エネルギー政策懇話会

[日 時] 令和7年6月2日(月) 14:50～17:00(懇話会)、17:10～18:30(交流会)

[場 所] 大阪科学技術センター

[参加者] 44名

[テーマ] 「DACの技術開発動向とビジネス展望」

[話題提供者] 1. 余語 克則(地球環境産業技術研究機構)

2. 石黒 文香(三菱商事)

[司 会] 秋元 圭吾(地球環境産業技術研究機構)、香川 公司(関西電力)

第2回エネルギー政策懇話会

[日 時] 令和7年7月15日(火) 15:30~17:30(懇話会), 17:30~19:00(交流会)
[場 所] 東京ガス本社ビル 会議室
[参加者] 29名
[テーマ] 「ペロブスカイト太陽電池に関する最新動向」
[話題提供者] 1. 島 正樹(エネコートテクノロジーズ)
2. 吉田 正裕(産業技術総合研究所)
[司 会] 波多江 徹(東京ガス)

第3回エネルギー政策懇話会

[日 時] 令和7年10月29日(水) 15:00~17:00(懇話会), 17:15~18:45(交流会)
[場 所] 東桜会館
[参加者] 27名
[テーマ] 「第7次エネルギー基本計画と産業界の対応」
[話題提供者] 1. 加藤 健太郎(デロイトトーマツコンサルティング)
2. 川瀬 広樹(日本特殊陶業)
[司 会] 原 卓也(豊田中央研究所), 藪下 雅崇(東邦ガス)

第4回エネルギー政策懇話会

[日 時] 令和8年1月20日(火) 15:00~17:00(懇話会), 17:10~18:30(交流会)
[場 所] 大阪科学技術センター
[参加者] 26名
[テーマ] 「エネルギーインフラの防災~最新の地震想定と異常気象予測への対応~」
[話題提供者] 1. 猪股 渉(日本ガス協会)
2. 榎本 剛(京都大学)
[司 会] 田中 琢実(大阪ガス), 小杉 隆信(立命館大学)

第5回エネルギー政策懇話会

[日 時] 令和8年2月6日(金) 15:00~17:00(懇話会), 17:00~18:30(交流会)
[場 所] 構造計画研究所 本所新館
[参加者] 29名
[テーマ] 「GX-ETSの制度設計における論点は何か-制度の詳細と運用における課題を探る-」
[話題提供者] 1. 若林 伸佳(経済産業省)
2. 清水 透(日本エネルギー経済研究所)
[司 会] 工藤 拓毅(日本エネルギー経済研究所), 伊野 慎二(構造計画研究所)

第6回エネルギー政策懇話会

[日 時] 令和8年3月19日(木) 15:00~17:00(懇話会), 17:15~18:45(交流会)
[場 所] グランパークプラザ ハイツ棟
[参加者] 25名
[テーマ] 「カーボンニュートラル社会実現のための標準化利用戦略II」
[話題提供者] 1. 工月 良太(日本ガス協会)
2. 堂野前 等(日本鉄鋼連盟)
[司 会] 松橋 隆治(東京大学), 櫻井 一貴(NTTアノードエナジー)

1-6 研究部会

若手の会：ポスターセッション・グループディスカッション

*第44回エネルギー・資源学会研究発表会で3件のポスターセッションを実施し、その後グループディスカッションを開催した。

1-7 研究委員会

家庭部門のCO₂排出実態統計調査利用研究会

*第42回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンスで企画セッションを開催した。

1-8 講習会

第1回講習会

[日 時] 令和8年3月25日(水) 13:00~17:00
[場 所] 砂防会館 別館3F「六甲」
[参加者] 50名
[テーマ] 「OCCTO将来電力需給展望から得られる示唆を考える」
[次 第] 開会挨拶・趣旨説明

1. 「将来の電力需給シナリオに関する検討会①報告書概要版」	電力広域的運営推進機関	小西 伸平
2. 研究機関による推計結果と留意点		
2-1) 「RITEによる推計結果と留意点」	地球環境産業技術研究機構	佐野 史典
2-2) 「脱炭素化と電力需要増加の両立：統合的システムの分析からの示唆及び今後の検討課題」	デロイトトーマツ	濱崎 博
2-3) 「電力中央研究所による推計結果と留意点」	電力中央研究所	間瀬 貴之
3. 電気事業者から見た将来電力需給展望と示唆		
3-1) 「将来の電力需給シナリオを踏まえた供給力確保について」	電気事業連合会	高野 隆彦
3-2) 「将来電力需給展望から得られる示唆と今後への期待」	東京ガス	鳥居 敦
[司 会] 秋元 圭吾(地球環境産業技術研究機構), 工藤 拓毅(日本エネルギー経済研究所)		

1-9 研究会・見学会

第1回研究会（見学会併催）

〔日 時〕 令和7年8月25日（月）12：50～16：00
 〔場 所〕 大阪・関西万博
 ・RITE 未来の森 ・大阪ガス「化けるLABO（ラボ）」 ・電力館「可能性のタマゴたち」
 〔参加者〕 21名
 〔テーマ〕 「大阪・関西万博 カーボンリサイクルファクトリー（CRF）と電力館 見学」

第2回研究会（見学会併催）

〔日 時〕 令和8年3月2日（月）12：55～17：30
 〔場 所〕 地球環境産業技術研究機構 本部
 〔参加者〕 25名
 〔テーマ〕 「地球環境産業技術研究機構（RITE）炭素回収技術評価センター（実ガス試験センター）でのCO₂回収技術見学会」
 〔コーディネーター〕 黒沢 厚志（エネルギー総合工学研究所）

1-10 共催行事

第63回燃焼シンポジウム

〔日 時〕 令和7年11月5日（水）～7日（金）
 〔場 所〕 パシフィコ横浜 ノース
 〔主 催〕 日本燃焼学会

原子力総合シンポジウム2025

（ハイブリッド開催）
 〔日 時〕 令和8年1月19日（月）
 〔場 所〕 日本学術会議講堂
 〔主 催〕 日本学術会議 総合工学委員会 原子力安全に関する分科会

1-11 企画実行委員会（茅賞・学生発表賞選考委員会）

第1回企画実行委員会

（オンライン開催）
 〔日 時〕 令和7年5月14日（水）
 〔出席者〕 19名
 〔座 長〕 松橋 隆治

第2回企画実行委員会

（オンライン開催）
 〔日 時〕 令和7年8月7日（木）
 〔出席者〕 19名
 〔座 長〕 秋元 圭吾

第3回企画実行委員会

（オンライン開催）
 〔日 時〕 令和7年10月8日（水）
 〔出席者〕 18名
 〔座 長〕 秋元 圭吾

第4回企画実行委員会

〔日 時〕 令和7年12月15日（月）
 〔場 所〕 エネルギー総合工学研究所
 〔出席者〕 18名
 〔座 長〕 秋元 圭吾

第5回企画実行委員会

（オンライン開催）
 〔日 時〕 令和8年2月9日（月）
 〔出席者〕 23名
 〔座 長〕 秋元 圭吾

（注）第2回、第5回企画実行委員会は、茅賞・学生発表賞選考委員会（座長：秋元 圭吾）を併催。

2. 編集関係

2-1 会誌「エネルギー・資源」・電子ジャーナル「エネルギー・資源学会論文誌」の刊行

通巻271号（5月号）

令和7年5月10日刊行（本文76頁）

〔特集〕 カーボンニュートラルに向けたモデル分析

- (1) 特集にあたって：長期エネルギー政策立案のためのモデル分析
- (2) AIM（アジア太平洋統合評価モデル）を用いた2050年脱炭素社会の実現に向けた排出経路と対策の評価

立命館アジア太平洋大学
 国立環境研究所

松尾 雄司
 日比野 剛
 芦名 秀一

- (3) 地球環境産業技術研究機構（RITE）による日本の2040年および2050年のエネルギーシステム分析

地球環境産業技術研究機構

増井 利彦
 秋元 圭吾
 佐野 史典

- (4) 持続可能な未来に向けた参加型・対話型シナリオ分析の実践

地球環境戦略研究機関

本間 隆嗣
 栗山 昭久
 田中 勇伍

- (5) TIMESによる2040年エネルギーミックスのモデル分析

デロイトトーマツコンサルティング

大久保辰哉
 宇都宮瑞生
 大屋 昌士

- (6) 太陽光・風力発電の立地影響を考慮した2040・50年のエネルギーミックス分析

日本エネルギー経済研究所

濱崎 博
 尾羽 秀晃

- (7) 効率化と自然エネルギーを中心としたエネルギーシナリオ2040年までにエネルギー自給率75%を達成する

自然エネルギー財団

高瀬 香絵
 木村誠一郎
 西田 裕子

東京科学大学

斉藤 哲夫
 分山 達也

*論文掲載件数
研究論文2件、技術論文2件

通巻272号 (7月号) 令和7年7月10日刊行 (本文63頁)

【特集】化学変換による二酸化炭素活用への展開

- | | | |
|------------------------------------------------------------|-----------|-------|
| (1) 特集にあたって | 大阪大学 | 安田 誠 |
| (2) 電解還元を用いた二酸化炭素の固定化：脱芳香族カルボキシル化反応の開発 | 北海道大学 | 美多 剛 |
| (3) 酵素を触媒としてCO ₂ を有効利用する有機合成 | 東京科学大学 | 奥 悠莉 |
| | | 松田 知子 |
| (4) CO ₂ からのギ酸製造～希少金属を使用しないCO ₂ 変換法～ | 神戸大学 | 松原 亮介 |
| (5) 二酸化炭素からの炭化水素合成 | 大阪大学 | 藤原 正浩 |
| (6) 環境循環型メタノールの社会実装に向けた展望 | 三菱ガス化学 | 久古 陽一 |
| (7) 常圧・低濃度CO ₂ を用いたポリウレタン原料の合成 | 産業技術総合研究所 | 小泉 博基 |
| | | 長江 春樹 |
| | | 竹内 勝彦 |
| | | 松本 和弘 |
| | | 深谷 訓久 |
| | | 崔 準哲 |
| | 東ソー | 中繁 誠人 |
| | | 坂口 孝太 |
| | | 羽村 敏 |

*論文掲載件数
研究論文5件

通巻273号 (9月号) 令和7年9月10日刊行 (本文81頁)

【特集】家庭部門のCO₂排出実態統計調査とその研究活用

- | | | |
|--------------------------------------------------|-----------------------|-------|
| (1) 特集にあたって | 電力中央研究所 | 西尾健一郎 |
| (2) 家庭CO ₂ 統計の歩み | 環境省地球環境局総務課脱炭素社会移行推進室 | 岡本 洋明 |
| (3) 家庭CO ₂ 統計の調査設計と品質向上に向けた取組 | 住環境計画研究所 | 岩船由美子 |
| (4) 家庭部門CO ₂ 排出実態統計調査利用研究会の活動 | 東京大学 | 星野 優子 |
| (5) 家庭CO ₂ 統計の研究活用例－需要構造に着目して－ | ENEOS | 小川 順子 |
| (6) 家庭CO ₂ 統計の研究活用例－地球温暖化・省エネ対策に着目して－ | 日本エネルギー経済研究所 | 山田 愛花 |
| (7) 家庭CO ₂ 統計の研究活用例－分析手法やデータ活用法に着目して－ | 電力中央研究所 | |

*論文掲載件数
研究論文8件、技術論文1件

通巻274号 (11月号) 令和7年11月10日刊行 (本文65頁)

【特集】水電解水素製造装置の最新動向

- | | | |
|-------------------------------------------|-------------|-------|
| (1) 特集にあたって | 三菱電機 | 光田 憲朗 |
| | 川崎重工業 | 猪股 昭彦 |
| (2) 水電解水素製造の概要と最新動向 | 横浜国立大学 | 黒田 義之 |
| | | 光島 重徳 |
| (3) 大型アルカリ水電解装置「Aqualyzer™」の開発と実証に関する最新動向 | 旭化成 | 中川 兼次 |
| | | 塚原 祐介 |
| | | 藤田 泰宏 |
| | | 内野 陽介 |
| (4) 水電解式高純度水素発生装置 HHOG® | 神鋼環境ソリューション | 小野田草介 |
| (5) グリーン水素の低コスト化に向けたプロトン交換膜形水電解セル技術の開発 | 東京ガス | 宇根本篤 |
| (6) 高圧水電解技術と循環型再生エネルギーシステム技術開発の取り組み | 本田技術研究所 | 針生 栄次 |
| (7) アニオン交換膜水電解 (AEMWE) の研究開発動向 | 山梨大学 | 内田 誠 |
| (8) グリーン水素製造に向けた高効率SOECの開発 | 日本特殊陶業 | 柴田 昌宏 |

*論文掲載件数
研究論文2件、技術論文1件

通巻275号 (1月号) 令和8年1月10日刊行 (本文65頁)

【特集】カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題

- | | | |
|----------------------------------------|----------------------|-------|
| (1) 特集にあたって | ファンクショナル・フルイッド | 藤岡 恵子 |
| | 大阪ガス | 大塚 浩文 |
| (2) 省エネルギー・非化石転換に向けた政府の取り組み | 経済産業省 | 中西 拓也 |
| (3) カーボンニュートラル達成に求められる熱利用技術 | アサヒクオリティーアンドイノベーションズ | 川村 公人 |
| (4) 未利用廃熱を活用した産業熱分野のCO ₂ 削減 | 大阪ガス | 若林 努 |
| (5) 中高温用相変化材料の開発と広義のサーマルマネジメント技術への展開 | 北海道大学 | 能村 貴宏 |
| (6) 革新的レトロテクノロジーの蓄熱発電・熱電池 | エネルギー総合工学研究所 | 岡崎 徹 |
| (7) 産業用高温ヒートポンプ技術の進展と今後の課題 | 電力中央研究所 | 甲斐田武延 |

【新春座談会】AI・DXが拓く持続可能な環境建築計画の未来～エネルギーと建築の最前線～

- | | |
|------------|-------|
| 竹中工務店 | 粕谷 貴司 |
| 日本設計 | 佐々木真人 |
| ダイキン工業 | 西野 淳 |
| アズビル | 小柳 隆 |
| (司会) 立命館大学 | 近本 智行 |

*論文掲載件数
研究論文2件、技術論文2件

〔特集〕ペロブスカイト太陽電池 加速する国産イノベーション

(1) 特集にあたって

(2) ペロブスカイト太陽電池の開発—性能と設置から回収まで

(3) フィルム型ペロブスカイト太陽電池の現状と課題

(4) ガラス建材一体型ペロブスカイト太陽電池の開発

(5) 産総研におけるペロブスカイト太陽電池の研究開発

(6) ペロブスカイト太陽電池の海外情勢について

(7) ポスト鉛系ペロブスカイト太陽電池—錫系ペロブスカイト太陽電池の研究開発動向—

東京ガス

三菱電機

桐蔭横浜大学

エネコートテクノロジーズ

パナソニック ホールディングス

産業技術総合研究所

兵庫県立大学

電気通信大学

馬場 好孝

光田 憲朗

宮坂 力

島 正樹

松井 太佑

村上 拓郎

伊藤 省吾

早瀬 修二

*論文掲載件数

技術論文2件

2-2 編集実行委員会 (査読委員会、論文賞選考委員会)

第1回編集実行委員会

(ハイブリッド開催)

〔日 時〕 令和7年4月23日 (水)

〔場 所〕 電力中央研究所

〔出席者〕 26名

〔座 長〕 岡島 敬一

第2回編集実行委員会

(ハイブリッド開催)

〔日 時〕 令和7年6月24日 (火)

〔場 所〕 電力中央研究所

〔出席者〕 24名

〔座 長〕 岡島 敬一

第3回編集実行委員会

(ハイブリッド開催)

〔日 時〕 令和7年8月19日 (火)

〔場 所〕 電力中央研究所

〔出席者〕 23名

〔座 長〕 岡島 敬一

第4回編集実行委員会

(ハイブリッド開催)

〔日 時〕 令和7年10月24日 (金)

〔場 所〕 電力中央研究所

〔出席者〕 25名

〔座 長〕 岡島 敬一

第5回編集実行委員会

(ハイブリッド開催)

〔日 時〕 令和7年12月18日 (木)

〔場 所〕 大阪ガス御堂筋東ビル

〔出席者〕 19名

〔座 長〕 岡島 敬一

第6回編集実行委員会

(ハイブリッド開催)

〔日 時〕 令和8年2月5日 (木)

〔場 所〕 電力中央研究所

〔出席者〕 23名

〔座 長〕 岡島 敬一

(注1) 編集実行委員会の前半に査読委員会 (座長: 吉田 好邦) を毎回開催。

(注2) 第1回、第4回、第6回編集実行委員会は、論文賞選考委員会 (座長: 吉田 好邦) を併催。

3. 総務関係

3-1 表彰

令和7年度表彰式

〔日 時〕 令和7年8月4日 (月) 14:00~14:25

〔場 所〕 東京大学 駒場 I キャンパス 900 番教室 (講堂)

第14回学会賞

*該当なし

第14回学会貢献賞 (表彰1件)

* (業 績) 「エネルギー政策懇話会創設以来の企画・運営に対する貢献」

(受賞者) 前田 章 (東京大学)

第13回茅賞 (表彰2件)

* (業 績) 「北海道におけるハイブリッド暖房のヒートポンプ化とDRへの貢献に関する検証」

(受賞者) 山田 武史 (リンナイ)

* (業 績) 「火力発電排ガスのPower to heat式CO₂分離回収の将来電力市場における経済性評価」

(受賞者) 磯谷 浩孝 (早稲田大学)

第13回学生発表賞 (表彰5件)

* (業 績) 「Exploring the Composition of Japan's Future Energy System Through the Japan Model Intercomparison Platform 2: Net Zero」

(受賞者) Eamon Krishna FRAZER (東京大学)

* (業 績) 「個別分散空調システムの運転データを用いた都市型キャンパスの運用実態把握と省エネルギー施策の効果分析」

(受賞者) 松浦 秀太 (大阪大学)

* (業 績) 「鉱物資源を考慮した最適化技術選択モデルによる電気自動車導入に関する分析」

(受賞者) 藤原 陸 (東京大学)

* (業 績) 「持続可能な土地利用に向けた、自然の寄与 (Nature's Contributions to People) を考慮した再生可能エネルギーポテンシャルの評価」

(受賞者) 菊池 耕陽 (東北大学)

* (業 績) 「日本の気候テック投資家ネットワークの発展: 形成過程の時系列分析と政府系投資家の役割」

(受賞者) 岩田 紘宜 (東京大学)

第21回論文賞 (表彰2件)

* (業 績) 「ソーラーシェアリングの事業形態における組み合わせ最適化の検討」

(受賞者) 斉藤 健吾、磐田 朋子 (芝浦工業大学)

* (業 績) 「家庭CO₂統計の個票データを用いたHEMS導入世帯の特徴と省エネ効果の分析」

(受賞者) 西尾 健一郎、山田 愛花、後藤 久典 (電力中央研究所)

3-2 総務委員会

第1回総務委員会

(オンライン開催)

[日 時] 令和7年4月25日 (金)

[出席者] 6名

[座 長] 浜田 誠一郎

第2回総務委員会

(オンライン開催)

[日 時] 令和7年9月17日 (水)

[出席者] 9名

[座 長] 浜田 誠一郎

第3回総務委員会

(オンライン開催)

[日 時] 令和8年2月19日 (木)

[出席者] 9名

[座 長] 浜田 誠一郎

以 上